



『連合アクション！街頭行動』の取り組み



2025 春闘勝利 『みんなでつくろう！賃上げがあたいまえの社会』



挨拶する澤田精一 連合福島会長

連合福島は、2月7日(金)の17:30より福島駅東口エスタビル前において「連合アクション街頭行動」を実施した。

2025春闘の一環として、働き方改革の推進、雇用の維持・継続を前提とした底上げ・底支え、格差是正をはかりつつ、年度末を前に売上げや業績不振により、解雇・雇止め或いは採用取り消しや内定取り消しなどが危惧されることから、「なんでも労働相談ダイヤル」、また新たに取り組む「子ども・育児に関わる相談ダイヤル」の周知と浸透に努めた。

冒頭、連合福島を代表し澤田精一会長は、『2024春闘を振り返れば、3年にもおよぶ物価高、より深刻化する人手不足、震災・災害等からの復旧・復興の中での春闘であった。労働組合の粘り強かつ真摯な交渉の結果より、33年ぶりに5%を超える高い水準の賃上げが実現した。正に、ステージ転換へ向けた大きな一歩を踏み出すことができた春闘となった。』

一方、賃上げは実現したものの、生活が向上したと実感する人は少数であり、個人消費は低迷している。3年連続での実質賃金のマイナスが示しているとおおり、物価の上昇に賃金が追い付いていなく、物価高が私たちの家計を圧迫していること、更に福島においても中小企業を中心に適切な価格転嫁・適正取引が進んでいないなど、賃上げの流れが十分に波及していないことも要因の一つである。

連合福島は、本日第5回執行委員会で『連合福島2025春季生活闘争方針』を確立した。2025春闘は「みんなの賃上げで、みんなの生活を向上させ、新たなステージを定着させる」、「働くことを軸とする安心社会に向け、格差是正と分配構造の転換に取り組む」、「みんなの春闘で労働組合に集う仲間を増やし、集団的労使関係を広げる」を基本スタンスとし、賃上げが定着し、賃上げがあたいまえの社会 新たなステージを定着させるための重要な闘いになる。



取り組みアピールをする
五十嵐天元副会長



街頭でボディスポンジとチラシ入りティッシュを配布

更に、春闘において、労使が真摯に交渉し、その結果をそれぞれの責任において、全ての労働者にしっかりと波及させることによって、大企業だけでなく、中小企業やパート・契約社員なども含めて、福島県内で働く方全員の賃上げ、最低賃金の引き上げを実現していく必要がある。連合福島は、福島県における「価格転嫁、価格交渉、環境整備」を強く訴え、サプライチェーンにおける労務費を含む価格転嫁をすすめるため、福島における政公労使でしっかり連携し取り組みを進める』と挨拶した。

最後に、連合福島・五十嵐天元副会長より2025春季生活闘争の取り組みアピールをし、街頭行動を打ち上げた。

街頭では、ボディスポンジとチラシ入りティッシュを配るなど通行される市民に訴えた。